

優秀賞

中学生部門

宮崎県宮崎市

宮崎県立宮崎西高校附属中学校2年

宮本 留那

人生の先輩

父が話をする時、酔っていれば運の尽き。頭に浮かんだ事を全て話し終えるまで延々と続く。さらに話す内容は、いつも同じ。呆れるのを乗り越えて、面白くもある。これが真の酔っ払いか。と思わせるような姿である。そんなある日、父が放った言葉に、寝むそうに閉じかけていた瞼が大きく開いた。

「未来のパターンは無限にある」

いつもと同じ話題でなかった事もあるが、今の私にはとても興味ある言葉だったのだ。

ある一つの行動で未来は大きく変わる。だからパターンは無限にある。その行動で、どんな変化が起きるかは分からない。それでも自分の未来なのだから、自分の思う様に行動するべきである。また行動するにあたって、他人の言う事を重荷に感じ無くて良い。人からの影響も上手く使って、十になるようにしなさい。

将来の事で少し悩んでいた私は驚いた。心を見透かされた様だった。これまで将来の事を自分で考え、決める事が出来なかったのだ。もともと優柔不断ではあったが、ずっと友達と共に行動していた。しかし、心の何処かではそれが嫌だった。

そんな中、父の話は流れる様に心に染み込んできた。慰められた様で、涙が出そうになった。酔っ払っていたので、少しおかしな文脈もあった。同じ事を繰り返す事もあった。それも全て、何処かしっくりときた。

私の一つの行動で未来は少しずつ変わる。これは十にもなるし、一にもなり得る。それを含めた、私の人生なのだ。私の人生がどんなものか、知り得る事は有り得ない。だからこそ思う。今のうちに出来る事はしておこうと。どんな未来のパターンも良いものであって欲しいから。

私は初めて、酔っ払いの父に感心した気がする。そして、本当に感謝した。さすがは人生の先輩である。